

## 共生言語としての柔道用語をもととした変容日本語の特徴

—世界マスターズ柔道選手権大会とフェリス女学院大学講道館日本語教育ボランティアの参与調査をとおして—

齋藤 孝滋

### 1. はじめに

嘉納治五郎により 1882 年に創始された柔道は、世界文化として定着・発展し続けており、特にフランス・ドイツ・ロシア他多数の欧州諸国や南米のブラジル等ではメジャースポーツ文化としての地位を確立している。

柔道用語は、全て日本語で成り立っているため、世界の柔道家の間では、語学としての標準日本語は別として、柔道用語の日本語については日常的に使用されているのである。そのような背景により、柔道家の間では、試合や合同練習等の国際的接触場面において、相互に母語が異なり、他に共通言語を持たない場合でも、「柔道用語を基とした、標準日本語とは異なる変容日本語」が「共生言語」として使用されているのである。本研究の目的は、その変容日本語の特徴の一端を明らかにすることにある。

### 2. 方法

本研究では、柔道家の間で共生言語として使用されている変容日本語について、柔道用語と標準日本語との対象をとおして、その特徴を分析する。本研究における調査資料は、「世界マスターズ柔道選手権大会」第 8 回大会(開催：2006 年 6 月 27~7 月 1 日、於フランス・トゥール、齋藤は M3<40 歳代前半の部>—66kg 級に選手として出場)・第 9 回(開催：2007 年 6 月 18~22 日、於ブラジル・サンパウロ、齋藤は M3—73kg 級に選手として出場)と、「フェリス女学院大学講道館日本語教育ボランティア」(貸切バスによる都内視察に日本語教育活動を組み入れる形で実施。ルート：講道館→柴又・帝釈天→矢切の渡し→新橋<うどん屋で昼食>→浜離宮→僧上寺→東京タワー→講道館、齋藤は引率教員として参加。以下同様) 第 6 回(実施：2006 年 9 月 24 日)・第 7 回(実施：2006 年 11 月 23 日)・第 8 回(実施：2007 年 3 月 11 日)・第 9 回(実施：2007 年 11 月 23 日)活動での、各国柔道家との接触場面における参与調査

によって得られたものである。

### 3. 変容日本語

本研究で対象とする柔道家の接触場面において使用される「柔道用語を基とした変容日本語」は、岡崎眸(2007)が共生日本語教育の特徴を示す中で指摘する共生日本語の要素を満たすものであると、判断できる。

- 共生日本語とは、多様な言語・文化背景を持つもの同士によるコミュニケーションを達成するための言語的手段の一つとして、接触場面で使われるに日本語である。
- 共生日本語は日本語母語話者が母語場面で使用する日本語ではない。したがって、日本語非母語話者は勿論、母語話者も共生日本語に対しては「所有権」を主張することはできない。どちらも、学び手という点で学習者であり、この点において、両者は理論的には完全に対等である。
- 母語話者の日本語を目標として、それに近づくように日本語学習を進めるということが非母語話者に要請されることはない。代わりに、コミュニケーションを進めるために機能しうる共生日本語を、母語話者と非母語話者が一緒になってコミュニケーションを実践することを通して、その場・その場で創造されることが要請される。岡崎眸(2007)21 頁

以下に、具体例について述べることとする。

#### 3.1 評価に関する変容日本語【イッポン、ワザアリ、ユーコー、コーカ】

##### 3.1.1 【イッポン】

##### 3.1.1.1 柔道用語《一本》

『国際柔道連盟試合審判規定』における《一本》の記述は、次のとおりである。a) 試合者の一方が、相手を制しながら背を大きく畳につくように、相対的な強さと速さをもって投げたとき。b) 試合者の一方

が、相手を押さえ込み、その試合者が「抑え込み」の宣告の後、25 秒間逃げることができなかつたとき。c) 通常、抑込技、寝技、関節技の結果として、試合者が手又は足で 2 度以上叩くか、または「参った」と言ったとき。d) 試合者の一方が、絞技あるいは関節技によって能力を喪失したとき。\*同義：試合者の一方が「反則負け」を受けたときは、他方の試合者が勝者となる。第 20 条「一本」  
○「一本」片手を頭上高く伸ばし、掌を前に向けて挙げる。第 8 条審判員の動作 a 主審-1

### 3.1.1.2 標準日本語[一本]

『大辞林』における[一本]の記述は次のとおりである。(2) 剣道で、決まり手となる一撃。通常、二本先取すると勝ち。柔道では、技が完全にかかること。一本先取すると勝ち。「一取る」→一本勝ち(3) 議論や勝負などで、相手をへこますこと。「これは一取られた」

### 3.1.1.3 変容日本語【イッポン】

接触場面におけるコミュニケーションから分析される【イッポン】の意味は、次のようである。●望まれる条件を十分に満たしている。最高の評価レベルである。すばらしい。●(食べ物の場合)(とても)おいしい。

## 3.1.2【ワザアリ】

### 3.1.2.1 柔道用語《技あり》

『国際柔道連盟試合審判規定』における《技あり》の記述は、次のとおりである。a) 試合者の一方が、相手を制しながら投げ、その技が「一本」に必要な 3 つの要素のうち 1 つが部分的に不足している場合。b) 試合者の一方が、相手を抑え込んで 20 秒以上 25 秒未満、逃げられなかったとき。\*同義：試合者の一方が 3 回目の「指導」の罰則を受けたとき、相手に「技あり」が直ちに与えられる。第 23 条「技あり」●試合者の一方が、1 つの試合で 2 回目の「技あり」を取ったときは(第 23 条参照)、主審は「技あり、合せて一本」と宣告する。第 21 条「技あり、合せて一本」○「技あり」片腕を体の側方で、肩の高さに掌を下に向けて挙げる。第 8 条審判の動作 a-2

### 3.1.2.2 標準日本語[技有り]

『大辞林』における[技有り]の記述は次のとおりである。柔道で、一本に近い技があったと認める判定。投げ技では一本に近い技の効果があつたとき、抑え込み技では抑え込んでから二五秒経過したときに、

技有りとなる二回取ると一本となる。

### 3.1.2.3 変容日本語【技あり】

接触場面におけるコミュニケーションから分析される【ワザアリ】の意味は、次のようである。(α) 望まれる条件の半分程度しか満たしておらず、不十分である。半分程度の評価レベルでしかない。(β) 望まれる条件の 3 分の 2 程度しか満たしておらず、不十分である。3 分の 2 程度の評価レベルでしかない。●(食べ物の場合) まずくはないが、おいしいわけでもない。

## 3.1.3【ユーコー】

### 3.1.3.1 柔道用語《有効》

『国際柔道連盟試合審判規定』における《有効》の記述は、次のとおりである。a) 試合者の一方が相手を制しながら投げ、その技が「一本」に必要なほかの 3 つの要素のうち 2 つが部分的に不足している場合。a-1) 「背中を大きく畳みにつく」要素において部分的に欠け、「強さ」と「速さ」の 2 つの要素のうち、1 つにおいて部分的に不足している。背を大きく畳みについているが「強さ」と「速さ」の 2 つの要素の 2 つとも、部分的に不足している。a-2) 背を大きく畳みについているが「強さ」と「速さ」の 2 つの要素の 2 つとも、部分的に不足している。b) 試合者の一方が、相手を押さえ込んで 15 秒以上 20 秒未満、逃げられなかったとき。\*同義：試合者の一方が 2 回目の「指導」の罰則を受けたとき、相手に「有効」が直ちに与えられる。第 24 条「有効」○「有効」片腕を体の側方 45 度に、掌を下に向けて挙げる。第 8 条審判の動作 a-4

### 3.1.3.2 標準日本語[有効]

『大辞林』における[有効]の記述は次のとおりである。(1) 効きめがあること。役に立つこと。また、そのさま。「一な治療を施す」「時間を一に使う」「一期限」⇔無効(3) 柔道で、もう少しで「技有り」となるような技があつたと認める判定。抑え込みの場合は二〇秒以上抑え込んだ場合、有効となる。

### 3.1.3.3 変容日本語【ユーコー】

接触場面におけるコミュニケーションから分析される【ユーコー】の意味は、次のようである。●望まれる条件の 3 分の 1 程度しか満たしておらず、極めて不十分である。3 分の 1 程度の低い評価レベルでしかない。●(食べ物の場合) 無理すれば食べられるが、まずくて苦手である。

## 3.1.4【コーカ】

### 3.1.4.1 柔道用語《効果》

『国際柔道連盟試合審判規定』における《効果》の記述は、次のとおりである。a) 試合者の一方が相手を制しながら「強さ」と「速さ」とをもって、片方の肩、尻、大腿部がつくように投げたとき。b) 試合者の一方が、相手を抑え込んで10秒以上15未満、逃げられなかったとき。\*同義：試合者の一方が1回目の「指導」の罰則を受けたとき、相手に「効果」が直ちに与えられる。第25条「効果」○「効果」片腕を曲げ、体側に肘をうけ、肩の方に拇指を向けて挙げる。第8条審判の動作 a-5

### 3.1.4.2 標準日本語[効果]

『大辞林』における[効果]の記述は次のとおりである。(1)ある行為の、目的にかなった結果。ききめ。「猛練習の—が表れる」「—をあげる」「逆—」。

### 3.1.4.3 変容日本語【コーカ】

接触場面におけるコミュニケーションから分析される【コーカ】の意味は、次のようである。●望まれる条件の3分の1程度にも達しておらず、0よりはましな程度である。3分の1程度にも達しない(0よりはましな)最低の評価レベルである。●(食べ物の場合)食べられない程まずくて苦手である。

### 3.1.5 用例

以下に、調査により得られ資料の一部を示す。なお、WMは世界マスターズ選手権大会、KVは講道館ボランティア、Fは女性、Mは男性、○は審判の動作が伴っていることを示す。

例①「【イッポン】○、【イッポン】○、【ワザアリ】○、【ユーコー】○、【コーカ】○、ジュードー【イッポン】○」

意味：(試合後、ビールを飲みながら)これはおいしい、(いろいろ料理食べながら)これもおいしい、これはまずくもおいしくもない、これはまずい、これは食べたものじゃない、(またビールを口に)これはおいしい、柔道はすばらしい! \*話者：ドイツM、WM2006年6月28日午後9時頃、於ツール市中心部のカフェ、共同参与者：守屋榮吉六段、ドイツM、ドイツF 共通言語無

例②「【ユーコー】? 【コーカ】?(不満そうな情で首を振りながら)【イッポン】【イッポン】○!」

意味：(私の披露したテクニックが)不十分だって? 最低だって? これは十分[効果的]なテクニックですばらしいよ!すばらしいよ! (話者が、披露してくれ

た効果的なテクニックに対し、齋藤が上木七段に対し、感心しながら日本語で「[有効]なかけ方ですね」といったところ、不満そうな表情を浮かべながらさらに熱心にそのテクニックを披露してくれた。齋藤がさらに、うっかり「[効果]的ですね」と言い換えたところ、【イッポン】【イッポン】○!と強く主張した。(その後、上木七段がすぐに気づきすばらしいという表情で【イッポン】といい、齋藤も同様に【イッポン】といったところ、満足そうな表情にもどり、その後はさらに柔道コミュニケーションで盛り上がった。\*話者：イタリアM、WM2006年6月29日午前、TGV車中、於荷物置き場の横のスペース、共同参与者：上木保男七段、共通言語英語(話者—上木七段)

## 3.2 違反に関する変容日本語【シドー、シドーシャ】

### 3.2.1 【シドー】

#### 3.2.1.1 柔道用語《指導》

『国際柔道連盟試合審判規定』における《指導》の記述は、次のとおりである。●「指導」は軽微な違反を犯した試合者に与えられる。1)試合において、勝負を決しようとしないうえ、故意に取り組まないこと。2)立姿勢において、組んだ後、極端な防御姿勢をとること(通常5秒を超えて)。他。第27条禁止事項と罰則 指導(軽微な違反)a

#### 3.2.1.2 標準日本語[指導]

『大辞林』における[指導]の記述は次のとおりである。(1)ある意図された方向に教え導くこと。「水泳を—する」「正しい—が必要」「—的立場」「—員」「—者」「—書」(2)柔道で、選手が禁止事項を犯したとき、審判員から受ける宣告の一。禁止事項のごく軽い犯し方をしたもの。

#### 3.2.1.3 変容日本語【シドー】

接触場面におけるコミュニケーションから分析される【シドー】の意味は、次のようである。●違反

### 3.2.2 【シドーシャ】

#### 3.2.2.1 柔道用語《指導者》

『国際柔道連盟試合審判規定』には、《指導者》についての記述はみられない。

#### 3.2.2.2 標準日本語[指導者]

『大辞林』には、立項されていないが、[指導]として記述がみられる(3.2.1.2参照)。それに従えば、次のような意味となる。●ある意図された方向に教え導く人。

### 3.2.2.3 変容日本語【シドーシャ】

●相手に「違反」であること宣告する人。過失や失敗をとがめる人。⇒ 指導者は、海外においても【センセー】[先生]または【コーチ】[コーチ]で通用している。

### 3.2.3 用例

ロシアの柔道家に、守屋七段と齋藤の関係(守屋七段は齋藤が中学時代指導を受けた道場の師匠筋)を聞かれ、答える中で、[指導]ということばを使ったところ両者が険悪な関係と勘違いされた。その後、【センセー】[先生]と表現して誤解を解いた。

WM2006年6月28日午後6時頃、於トゥール市の試合会場

### 3.3 行動に関する変容日本語【マテ】

#### 3.3.1 【マテ】

##### 3.3.2.1 柔道用語《待て》

『国際柔道連盟試合審判規定』における《待て》の記述は、次のとおりである。●主審は次の場合に試合を一時止めるために「待て」と宣告する。試合を再び再開するために、「始め」と宣告する。  
a) 試合者の一方又は双方が試合場外に出たとき。第17条「待て」の適用●「待て」の宣告後、試合者はすばやく試合開始時の位置に戻らなければならない。第17条附則 ●「待て」片手を肩の高さに畳とほぼ平行に挙げ、指を上にして開いた掌を時計係に向けて示す。第8条 審判員の動作9

##### 3.3.2.2 標準日本語【待て】

『大辞林』には、[待て]の基本形[待つ]について、次のような記述がみられる。(2) (「待って」「待ってくれ」など、相手に要求する形で) ある動作を今まさにしようとしていたのを、いったんやめる。《待》「こらー・ちなさい。その前に宿題を片付けてしまいなさい」「ー・ってくれ。一度に言われても頭に入らない」「ちょっとー・った。そこはおかしいよ」

##### 3.3.2.3 変容日本語【マテ】

接触場面におけるコミュニケーションから分析される【マテ】の意味は、次のようである。●動作をやめて、すばやくもとの場所に戻る。

##### 3.3.3 用例

例③ 集団で移動する際に、ずいぶん先を歩いている先頭集団の人に対して、そこで[待って]いてもらおうと思い、[待て]といたら、引き返してきてしまった。\*KV2006年9月24日午前10時30分

頃、帝釈天から矢切の渡しに向かう途中 ⇒この場合の指示は、【ソノママ】が適切である。

#### 参考文献

- 岡崎眸 2007 「共生日本語教育とはどんな日本語教育か」『フェリス女学院大学 日本語教育学論究』3  
加藤孝幸・齋藤孝滋 2007 「日本事情としての柔道実技体験学習と教育効果」『フェリス女学院大学文学部紀要』42  
飯屋力 2005 「日本語教育ボランティア実施報告-講道館国際柔道セミナー都内視察-」『日本語教員養成講座 2004年度報告書』フェリス女学院大学日本語教員養成講座  
河先俊子 2004 「講道館日本語教育ボランティア報告」『日本語教員養成講座 2003年度報告書』フェリス女学院大学日本語教員養成講座  
講道館監修、工藤信雄他編 1996 『現代柔道人物叢書』第6～第11巻、本の友社  
齋藤孝滋・會田祐子・石井絵美子・山際梨華・薬師寺奈々 2007 「第4～8回講道館日本語教育ボランティア報告」『日本語教員養成講座 2006年度報告書』フェリス女学院大学日本語教員養成講座  
齋藤孝滋 2004 「多文化共生日本文化教育者として嘉納治五郎-著作文章を資料として-」『フェリス女学院大学日本語教育学論究』創刊号  
齋藤孝滋 2007 「柔道の試合における礼行動の変容に関する事例的研究-世界マスターズ柔道選手権大会と日本マスターズ柔道大会の観察・参与調査による-」『フェリス女学院大学日本語教育学論究』3  
全日本柔道連盟 2004 『国際柔道連盟試合審判規定』共立速記印刷株式会社  
野口宏水 2007 「世界マスターズ柔道選手権大会 ブラジル・サンパウロ」『柔道』9月号  
松村明編三省堂編修所編 2006 『大辞林』三省堂  
付記：本研究は、2007年度日本私立学校振興・共済事業団特別補助対象共同研究「日本語・日本文化の発信・受容・変容に関する基礎的研究」(代表:齋藤孝滋)による研究成果の一部である。本研究の調査の場となった世界マスターズ選手権大会への出場は、恩師である湘南宮本塾師範宮本隆八段のお導きと、宮本隆弘六段、加藤孝幸五段を始めとする先生方のお導きによるものである。また大会の際には、会長野口宏水七段をはじめとする日本マスターズ柔道協会の先生方に大変お世話になり、特に本発表における参与調査は、結果的に一関学院柔道部監督守屋榮吉六段、天羽高等学校柔道部顧問上木保男七段にご一緒頂いた部分が多い。講道館日本語教育ボランティアに際しては、国際柔道連盟元副会長故竹内善徳九段をはじめとする講道館国際部の先生方に大変お世話になっている。特に講道館側引率者飯屋力五段、下山陽邦四段には、毎回様々なご教示を賜っている。共生言語については、共同研究者でもある河先俊子先生、吹原豊先生より貴重なご教示を賜った。皆様に心より御礼申し上げます。

さいとう こうじ/フェリス女学院大学文学部  
ksaito@ferris.ac.jp